



ぐだま

それぞれの居場所

NPO法人「優人」

民間福祉施設「元気な亀さん」

有限会社オールフォアワン 宅老所「いしさん家」

NPO法人 井戸端介護 宅老所「井戸端げんき」

利用者と利用者の家族のみなさん

スタッフとスタッフの家族のみなさん

企画製作・監督 大宮浩一 (「よいおなを」「青葉のころよいおなを」)

プロデューサー 安岡卓治 (「A」「A-2」「花と真実」)

エンディングテーマ 森圭一郎 「君のため」「くた歌」(「くた」は「くた」の音読み)

取材ディレクター 北里宇一郎 撮影 山内大堂 録音 大澤一生 編集 辻井澤

サウンドデザイン 石垣哲 題字 板谷彦山 ナレーター 伊藤梢

推薦 宅老所グループホーム全国ネットワーク

NPO法人 全国コミュニティライフサポートセンター

社団法人 日本看護協会 (賛同)

配給宣伝協力 東風

NPO法人 KAWASAKI A-1 (制作)

配給 安岡フィルムス

製作著作 大宮映像製作所

2010年 HD 16:9 日本 98分 ドキュメンタリー

◎ 大宮映像製作所



介護保険制度導入から10年——映画でみつめる介護の現在。



ようやく見つけた、それぞれの居場所。いっしょに見つめてみませんか？



本作は、創立23年の民間福祉施設と、新たに若者によって設立された三つの施設取材。人手不足や低賃金などの問題ばかりが取り上げられがちな介護の現場ですが、映画は、利用者やその家族と深くかかわることを望み、日夜奮闘する施設のスタッフたちの姿を映しだしていきます。仕事を引退した事を忘れて出かけてしまうおじいさん、夢と現実の区別がつかずにスタッフを叩くおばあさん。個性的で、ときに一筋縄ではいかない人たちが、ここでは「普通」に生活しています。「一律に決められた“やらされる介護”はしたくない、一人一人に相応しい介護を見つけていきたい」そう語るのは、ある施設の園長さん。制度とシステム、医療と介護、家族と社会。その狭間をさまよいつつ、ようやく見つけたそれぞれの居場所。そこにはきっと、大切な誰かと、ともに生きるためのヒントがあるはずです。



老いや弱さの持つ力をあらためて確認し
「降りる生き方」に咲いた色とりどりの幸福の形に
心が抱きしめられる。

寺田和代 (社会福祉士、ライター／クロワッサン誌778号「女の新聞」より)

介護をテーマにした映画という、わざとらしいナレーションに
情緒たっぷりの音楽で、「福祉の心」を謳いあげるものばかりだった。
しかし、この映画の作り手たちは、それを伝える映像というものを信じている。
だから、音楽やナレーションで演出しなくても、心は動く。
拍手したくなったり、思わず吹き出したり、泣きそうにもなる。
これは、私たちがとくに脱却したいと思っている野蛮という人類史から、
本当に脱却するための実践をしている人たちの記録である。

三好春樹 (生活とリハビリ研究所 代表／「月刊プリコラージュ」編集人)

介護保険をはじめ制度ができると、
多くの人が救われ世の中の風景が変わる。
しかし制度そのものの持つ欠陥は、
必ずその枠組からこぼれる人が出てくること。
私自身、もし自分が介護施設でお断りをくったら
どうしようと不安を感じる年頃になった。
はみ出し高齢者に居場所をつくるのは、制度ではなく結局人である。
とくに普通の若い人が乗り出していることに心安らいでいる。

樋口恵子 (評論家)



予想を遥かに超えていた。

観ながらずっとこらえていた。でも最後の最後、思わず嗚咽がもれた。
徹底して抑制したスタイルが、そして加算ではなく減算した手法が、
ドキュメンタリーの神髄を具象化した。

人間ってすごい。侮れない。愛おしい。そして切ない。
それらを実感できる映画だ。

森 達也 (映画監督・作家)



その人の〈ある〉が保障される場が居場所だ。
〈ある〉を保証するのに、余分なことはいらぬ。
そこに居続ける特定の、特別な誰かがいればよい。
その誰かに自分のまことが受けとめられていると感じたとき、
人は安定的に自分が自分であっていいのだと思えるようになる。
介護の基本は、こうした自足感を生み出すことではないか。
——家族の未来に一条の光が射して来る、
そんな嬉しい気持ちで見終わったのだった。

芹沢俊介 (社会評論家)

介護する人も、介護される人も、
みんなみんな闘っている。(これが現実だ)
これが今の日本だ、これからの日本だ!!
さあどうするどうする、どうすりゃいいんだ!!



毒蝮三太夫 (タレント)

www.tadaima2010.com

平成22年度文化庁映画賞(文化記録映画部門)

文化記録映画大賞『ただいま それぞれの居場所』贈賞理由

2000年に、介護保険制度がはじまって以来、介護サービスが盛んに行われるようになったが、その一方で、介護を必要としながらも、制度の規範にあわず、受け入れられないといった人々も少なくない。この作品では、そうした現状をふまえ、自分の理想とする介護を展開しようと開設された、施設の事業所や施設を訪ね、その介護の現場で働く人々に密着して、多種多様な介護の実態を、生々しく、印象深く描き出すことに成功している。(平成22年度文化庁映画賞選考委員 福井康雄/短編映像プロデューサー)



NPO法人ゆいの会 20周年行事 ^{あい アイ} 愛・Iフェスティバル in 2011

6月25日(土) 10:00~15:00

会場: 知多市勤労文化会館 やまももホール

映画「ただいま」1回上映 10:40~12:15 入場無料

(お問い合わせは NPO法人 ゆいの会 まで 電話0562-32-5906)